

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200182
法人名	スターツケアサービス株式会社
事業所名	グループホームきらら新浦安(桜ユニット)
所在地	千葉県浦安市明海2-12-1
自己評価作成日	令和2年7月4日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	令和2年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

0歳～100歳までが共に生活、高齢者施設も複数ある複合施設である為、子供たちからの刺激を得ながら楽しい環境で過ごす事が出来、落ち着きや癒しを得ることが出来る。GHも2Uが同じ階にある為2Uの協力体制が作りやすく広いスペースを行き来することが出来る為、社会性の拡大や室内の生活になっても運動量の向上を図ることが出来る。外に出ることが困難な状況下、室内で出来る活動についてスタッフと共に考え実践している。重度の入居者が多い中で出来ることの発掘を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔あふれるホーム～その人らしさを大切に～」をスローガンに掲げています。さらに新ホーム長の下、アクティビティの充実、業務の負担軽減に向けた取り組みなども新たな目標に掲げ全体で共有しています。開設から築き上げてきたこれまでの取り組みを継続しながら、新ホーム長の下でアクティビティを増やし活動性の向上を図るほか、ケアマネジメントの強化を図りアセスメントの分析やケアプラン内の総合的な支援方針についてより明確に示すなどの取り組みにも力を入れています。両ユニットが同フロア内で併設されているため利用者も職員も互いのユニットを行き来しながら連携が取れることも当ホームの強みとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はし実践につながっている。	「笑顔あふれるホーム～その人らしさを大切に～」をホームのスローガンに掲げています。さらにアクティビティの充実、業務の負担軽減に向けた取り組みなども目標に掲げ全体で共有して日々取り組んでいます。会社の企業理念、運営理念等も朝礼で唱和しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時勢により交流はない。	令和2年9月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との交流については実施していませんが、感染症拡大以前は隣接の有料老人ホームで開催するイベントや認知症啓蒙のマラソンイベントへの参加、近隣のショッピングセンターなど地域資源も効果的に活用しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時勢により行うことは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は1回のみ。少人数の参加の中、報告や話し合い、意見の吸収は出来ている。	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議の回数は縮小しており、9月現在直近では6月に実施しています。会議には多くの家族が参加されており、利用者や運営状況、活動報告のほか家族からの意見も収集しサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、行政への報告や連絡を行い、行政側も親身に関りを持ってくれ、協力関係は築けている。	市の担当課との連携では、新型コロナウイルス感染症対策においては、マスクの無償配布を受けるなど協力を頂くことができています。また運営上相談が必要な事項については担当者と連携を図り協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為に玄関は施錠している。2Uはフリーにしている。状況に応じてスタッフとも話し合い、スタッフへの伝達をしながら身体拘束をしないケアの実践を行っている。	運営推進会議と同時に身体拘束廃止委員会の実施のほか毎月のホーム長・リーダー会議の中で不適切な対応等がないかについて確認しています。さらにホーム内の研修を通じて身体拘束廃止や虐待防止研修を実施し職員の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力も含め定期的に確認・発信しながら支援している。		

グループホームきらら新浦安(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人をつけているご入居者はいないが必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来設・電話での質問への対応はしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価の結果は閲覧出来る状況を作ると共に運営推進会議での伝達・改善策等話を行っている。	家族からの意向や要望については面会時やケアプランの説明時に個別に確認するほか、6月に実施した運営推進会議を通して意向等を確認しています。利用者からの意向や要望については日常会話を通じて確認し本人本位に検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の3種類の会議にて収集・検討等を行っている。また日常も話を聴く機会を設け運営を行っている。	賞与や昇給の際にはホーム長が職員と個別面談を実施しており、その際に現在の課題や今後の目標、意向や要望等について確認を行っています。またホーム長が日頃から職員に声をかけ、気軽に相談できる環境を築き不安や悩みの早期解決に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法令遵守を意識しながらも働きやすい環境について考え発信している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やQM研修・口腔機能訓練加算研修の毎月の参加、話あいによる実践力の向上を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時勢により行えていない。		

グループホームきらら新浦安(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	年度変わりて新規の入居者がいない。しかし、インテークの段階から信頼関係の構築はしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年度変わりて新規の入居者がいない。しかし、インテークの段階から信頼関係の構築はしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	年度変わりて新規の入居者がいない。しかし、インテークの段階にアセスメントを行いニーズの充足はする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を営む仲間同士の関りに意識を向けながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時勢により面会の時間制限は設けているものの短時間の面会でも行うことで本人と家族との関係が継続出来るようにしている。又生活情報報告シートを含め情報共有し本人の支援に当たっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話を通して自身の馴染みの人・場所等の回想も行っている。	利用者の友人や知人など馴染みの方の来訪は多くはありませんが、ホームとしては馴染みの関係を大切にしていきたい考えであり、感染症の拡大が落ち着いた際には併設の有料老人ホームに入居する友人に面会に行くことなども予定しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つのユニットにとらわれず二つのユニットの入居者同士の関りが穏やかに出来るように支援している。		

グループホームきらら新浦安(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に相談があれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話からも把握に努めている。自身で訴えることが出来ない入居者の場合にはご家族への聞き取りを行っている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、又、ご本人との会話から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や本人の訴え、観察等を通して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜、またユニットMTGでの話し合いを行い計画書に反映している。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当会議を開催し、職員、利用者本人、家族のほか主治医や看護師など多職種の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認する仕組みとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、業務日誌やケアカルテでの申し送りを行うと共に口頭での情報共有を行った内容をモニタリングとして落とし計画書の変更等行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どのようなニーズがあり、どのような支援が必要か分析しサービス手段を検討・導入している。		

グループホームきらら新浦安(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時勢が落ち着けば発掘を行っていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時代と同様の医師を希望される場合には継続している。往診医以外での大学病院等の専門医にかかることも同様である。	ホームの協力医療機関の往診が月2回あり、訪問看護の来訪も週に一度あります。利用者の体調変化時には速やかに主治医に連絡を入れて指示を仰ぎ、迅速な対応を可能としています。また訪問歯科やマッサージなども受け入れ必要な医療体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の際には気づいたことの伝達を行い、情報共有しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時勢により書面・電話での情報交換となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診時に医師と看護師・スタッフと話し医師から症状の伝達等行っている。また、その内容の共有を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。看取りケアについては家族の要望及び主治医の見解なども踏まえ慎重に見極めていく姿勢としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に関しては毎日朝礼時に意識化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練終了後に会議で共有、意識化している。併設事業所との共同を行い対応出来るように話し合いを持っている。	併設事業所と合同で令和2年6月に夜間想定避難訓練を実施しています。また同年9月に併設事業所と合同での総合訓練を予定しています。感染症予防に向けてもホーム内の消毒の徹底、消毒液の希釈方法についても会議で全体に周知しています。	

グループホームきらら新浦安(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修・会議を通して周知・意識化し実践するようにしている。	毎月のホーム長、リーダー会議、2ヶ月毎の身体拘束廃止委員会の中で言葉遣いや対応についての振り返りを行い適切なケアが実施できているか定期的に確認しています。職員一人ひとりも日々意識して取り組み不適切な対応が無いように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の声掛けを工夫しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の意識もしてもらいながら、無理強いくことなく支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	発汗・汚染等の状態に応じて毎朝の着替えを行っている。整容もしっかり行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化の為に一緒にいる事には制限があるが出来ることは行って頂いている。	利用者の希望も取り入れて食事メニューを作り、近所のスーパーを活用して食材を調達しています。利用者の関りも大切にして職員と一緒に準備や後片付けを進めています。食事の楽しみに向けて父の日に居酒屋、誕生日には手作りケーキでの祝福など工夫を取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重変化や摂取量の記録により把握し形態変更他話し合いを行いながら支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実践。必要に応じて歯科医師からの指導を仰いでいる。		

グループホームきらら新浦安(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤のコントロールや排泄のタイミングを把握しながら支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力し、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午後の運動やホーム内の散歩が出来るように声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日を意識してもらえるように基本、入浴日は決め、体調不良時には変更を行っている。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や明かり等、個々の入居者が安心して睡眠出来るように個別化している。また清潔環境にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や薬情をとおして把握、内服の状況に応じて投与方法を変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援についても本人の意向を意識しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時勢・季節柄、スタッフによる戸外の外出支援は行っていない。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出行事は実施していませんが、活動性を高めるためにホーム内での歩行訓練やおやつ前の嚙下体操、ホーム内で居酒屋や納涼祭などのレク活動を通して生活の活性化を図り楽しみにつなげています。	アクティビティの充実化についてはホーム全体でも今後の目標に掲げていますが、職員のアイデアも踏まえながらさらなる充実化を図り利用者の活動性がより向上していく事を期待します。

グループホームきらら新浦安(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本預かり金で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みをしている方や家族とはがきのやり取りをしている方はいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の装飾に季節感を持たせたり常に清潔を保つことで居心地よく過ごせる様にしている。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の関係によって席替等行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真等の持参により工夫されている。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線への配慮も含め工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200182		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら新浦安(楓ユニット)		
所在地	千葉県浦安市明海2-12-1		
自己評価作成日	令和2年7月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和2年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

0歳～100歳までが共に生活、高齢者施設も複数ある複合施設である為、子供たちからの刺激を得ながら楽しい環境で過ごす事が出来、落ち着きや癒しを得ることが出来る。GHも2Uが同じ階にある為2Uの協力体制が作りやすく広いスペースを行き来することが出来る為、社会性の拡大や室内の生活になっても運動量の向上を図ることが出来る。外に出ることが困難な状況下、室内で出来る活動についてスタッフと共に考え実践している。重度の入居者が多い中で出来ることの発掘を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔あふれるホーム～その人らしさを大切に～」をスローガンに掲げています。さらに新ホーム長の下、アクティビティの充実、業務の負担軽減に向けた取り組みなども新たな目標に掲げ全体で共有しています。開設から築き上げてきたこれまでの取り組みを継続しながら、新ホーム長の下でアクティビティを増やし活動性の向上を図るほか、ケアマネジメントの強化を図りアセスメントの分析やケアプラン内の総合的な支援方針についてより明確に示すなどの取り組みにも力を入れています。両ユニットが同フロア内で併設されているため利用者も職員も互いのユニットを行き来しながら連携が取れることも当ホームの強みとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はし実践につながっている。	「笑顔あふれるホーム～その人らしさを大切に～」をホームのスローガンに掲げています。さらにアクティビティの充実、業務の負担軽減に向けた取り組みなども目標に掲げ全体で共有して日々取り組んでいます。会社の企業理念、運営理念等も朝礼で唱和しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時勢により交流はない。	令和2年9月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との交流については実施していませんが、感染症拡大以前は隣接の有料老人ホームで開催するイベントや認知症啓蒙のマラソンイベントへの参加、近隣のショッピングセンターなど地域資源も効果的に活用しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時勢により行うことは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は1回のみ。少人数の参加の中、報告や話し合い、意見の吸収は出来ている。	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議の回数は縮小しており、9月現在直近では6月に実施しています。会議には多くの家族が参加されており、利用者や運営状況、活動報告のほか家族からの意見も収集しサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、行政への報告や連絡を行い、行政側も親身に関わりを持ってくれ、協力関係は築けている。	市の担当課との連携では、新型コロナウイルス感染症対策においては、マスクの無償配布を受けるなど協力を頂くことができています。また運営上相談が必要な事項については担当者と連携を図り協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為に玄関は施錠している。2Uはフリーにしている。状況に応じてスタッフとも話し合い、スタッフへの伝達をしながら身体拘束をしないケアの実践を行っている。	運営推進会議と同時に身体拘束廃止委員会の実施のほか毎月のホーム長・リーダー会議の中で不適切な対応等がないかについて確認しています。さらにホーム内の研修を通じて身体拘束廃止や虐待防止研修を実施し職員の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力も含め定期的に確認・発信しながら支援している。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人をつけているご入居者はいないが、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来設・電話での質問への対応はしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価の結果は閲覧出来る状況を作ると共に運営推進会議での伝達・改善策等話を行っている。	家族からの意向や要望については面会時やケアプランの説明時に個別に確認するほか、6月に実施した運営推進会議を通して意向等を確認しています。利用者からの意向や要望については日常会話を通じて確認し本人本位に検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の3種類の会議にて収集・検討等を行っている。また日常も話を聴く機会を設け運営を行っている。	賞与や昇給の際にはホーム長が職員と個別面談を実施しており、その際に現在の課題や今後の目標、意向や要望等について確認を行っています。またホーム長が日頃から職員に声をかけ、気軽に相談できる環境を築き不安や悩みの早期解決に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法令遵守を意識しながらも働きやすい環境について考え発信している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やQM研修・口腔機能訓練加算研修の毎月の参加、話あいによる実践力の向上を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時勢により行えていない。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	年度変わりて新規の入居者がいない。しかし、インテークの段階から信頼関係の構築はしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年度変わりて新規の入居者がいない。しかし、インテークの段階から信頼関係の構築はしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	年度変わりて新規の入居者がいない。しかし、インテークの段階にアセスメントを行いニーズの充足はする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を営む仲間同士の関りに意識を向けながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時勢により面会の時間制限は設けているものの短時間の面会でも行うことで本人と家族との関係が継続出来るようにしている。又生活情報報告シートを含め情報共有し本人の支援に当たっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話を通して自身の馴染みの人・場所等の回想も行っている。	利用者の友人や知人など馴染みの方の来訪は多くはありませんが、ホームとしては馴染みの関係を大切にしていきたい考えであり、感染症の拡大が落ち着いた際には併設の有料老人ホームに入居する友人に面会に行くことなども予定しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つのユニットにとらわれず二つのユニットの入居者同士の関りが穏やかに出来るように支援している。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に相談があれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話からも把握に努めている。自身で訴えることが出来ない入居者の場合にはご家族への聞き取りを行っている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、又、ご本人との会話から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や本人の訴え、観察等を通して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜、またユニットMTGでの話し合いを行い計画書に反映している。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当者会議を開催し、職員、利用者本人、家族のほか主治医や看護師など多職種の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認する仕組みとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、業務日誌やケアカルテでの申し送りを行うと共に口頭での情報共有を行った内容をモニタリングとして落とし計画書の変更等行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どのようなニーズがあり、どのような支援が必要か分析しサービス手段を検討・導入している。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時勢が落ち着けば発掘を行っていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時代と同様の医師を希望される場合には継続している。往診医以外での大学病院等の専門医にかかることも同様である。	ホームの協力医療機関の往診が月2回あり、訪問看護の来訪も週に一度あります。利用者の体調変化時には速やかに主治医に連絡を入れて指示を仰ぎ、迅速な対応を可能としています。また訪問歯科やマッサージなども受け入れ必要な医療体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の際には気づいたことの伝達を行い、情報共有しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時勢により書面・電話での情報交換となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診時に医師と看護師・スタッフと話し医師から症状の伝達等行っている。また、その内容の共有を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。看取りケアについては家族の要望及び主治医の見解なども踏まえ慎重に見極めていく姿勢としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に関しては毎日朝礼時に意識化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練終了後に会議で共有、意識化している。併設事業所との共同を行い対応出来るように話し合いを持っている。	併設事業所と合同で令和2年6月に夜間想定避難訓練を実施しています。また同年9月に併設事業所と合同での総合訓練を予定しています。感染症予防に向けてもホーム内の消毒の徹底、消毒液の希釈方法についても会議で全体に周知しています。	

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修・会議を通して周知・意識化し実践するようにしている。	毎月のホーム長、リーダー会議、2ヶ月毎の身体拘束廃止委員会の中で言葉遣いや対応についての振り返りを行い適切なケアが実施できているか定期的に確認しています。職員一人ひとりも日々意識して取り組み不適切な対応が無いように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の声掛けを工夫しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の意識もしてもらいながら、無理強いくことなく支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	発汗・汚染等の状態に応じて毎朝の着替えを行っている。整容もしっかり行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化の為に一緒にいる事には制限があるが出来ることは行って頂いている。	利用者の希望も取り入れて食事メニューを作り、近所のスーパーを活用して食材を調達しています。利用者の関りも大切にして職員と一緒に準備や後片付けを進めています。食事の楽しみに向けて父の日に居酒屋、誕生日には手作りケーキでの祝福など工夫を取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重変化や摂取量の記録により把握し形態変更他話し合いを行いながら支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実践。必要に応じて歯科医師からの指導を仰いでいる。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤のコントロールや排泄のタイミングを把握しながら支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力し、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午後の運動やホーム内の散歩が出来るように声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日を意識してもらえるように基本、入浴日は決め、体調不良時には変更を行っている。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴状況については記録システムに入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や明かり等、個々の入居者が安心して睡眠出来るように個別化している。また清潔環境にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や薬情をとおして把握、内服の状況に応じて投与方法を変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援についても本人の意向を意識しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時勢・季節柄、スタッフによる戸外の外出支援は行っていない。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出行事は実施していませんが、活動性を高めるためにホーム内での歩行訓練やおやつ前の嚙下体操、ホーム内で居酒屋や納涼祭などのレク活動を通して生活の活性化を図り楽しみにつなげています。	アクティビティの充実化についてはホーム全体でも今後の目標に掲げていますが、職員のアイデアも踏まえながらさらなる充実化を図り利用者の活動性がより向上していく事を期待します。

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本預かり金で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みをしている方や家族とはがきのやり取りをしている方はいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の装飾に季節感を持たせたり常に清潔を保つことで居心地よく過ごせる様にしている。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の関係によって席替等行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真等の持参により工夫されている。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線への配慮も含め工夫している。		